

平成29年度 北海道小学校長会地区活性化支援事業【実践事例レポート】

- 1 報告地区： 十勝地区
 - 2 事例報告学校名： 本別町立仙美里小学校
 - 3 報告者： 高瀬 悟 史
 - 4 キーワード： 保護者・地域連携
-

1 はじめに

本校のある仙美里地区は、本別市街より北に6kmの地点に位置し、利別川流域に開けた狭小な平地と丘陵地帯が南北に連なったところで、校下を南北に国道242号線が走っています。仙美里市街周辺の平坦地では、馬鈴薯、ビート、豆類等を中心とした畑作農業経営が多く、少し離れた丘陵地では大規模酪農経営が多く行われています。

保護者の教育に対する関心は高く、PTA活動は活発です。開校117年を迎える本校は、児童数32名、7学級（特別支援学級3）の複式小規模校です。また、平成31年度から本別町教育委員会指定のコミュニティ・スクールとして地域と共に歩む、開かれた学校づくりに向け準備を進めているところです。

2 保護者・地域人材を生かした特色ある教育活動

(1) 搾乳体験活動

3年生以上の児童たちが、JA青年部の方々の協力のもと、校下の農場で搾乳体験を実施しました。児童たちは素手で直に乳房に触れ、意欲的に乳搾りに挑戦していました。全員で搾乳した量は、バケツ1杯になりました。また、前日に生まれたての子牛も見学しました。その後の質問コーナーでは、いろいろなことを分かりやすく教えていただきました。私たちの日常の『食』に関する恩恵が、生き物の命や仕事に携わる生産者の方々のご苦労の上に成り立っている感謝の気持ちを感じてもらえたらと思います。



(2) JA青年部との農業体験

毎年、3年生以上の児童が、JA青年部のご協力で農業体験学習を行っています。

メイクイン他、いろいろな種類のじゃがいもやチンゲン菜、大根などを植付けしています。

昨年度から、旧仙美里中学校の農園にも植え付けをしましたので、収穫量が増え、9月に開催される本別町のお祭り、「きらめきフェスタ」で、子どもたちが収穫したジャガイモをJA青年部の協力で販売するという取組を行っています。

子どもたちが育て、収穫した作物は、商品として家庭に届き、食されることになります。働くことへの意欲・関心を高める、貴重な勤労体験となりました。



(3) 保護者と共に体力づくり「陸上ミニ記録会」



毎年9月、保護者の協力を得て、全校児童による陸上ミニ記録会を行っています。種目は立ち幅跳び、幅跳び、ボール投げ、持久走です。夏休み明けから体育の時間を中心に練習してきました。日頃の成果が記録となって目に見え、保護者も子どもたちの成長を感じる取組です。

(4) 地域の人材を活用した「もちつき体験」

2年に一度、12月に「もちつき体験学習」を地域のもちつき保存会「十五夜会」、PTA三役、PTA婦人部をはじめ保護者の皆さんの協力で開催しています。

つきあがったお餅はとても柔らかくて温かく、子どもたちが丸め、きなこや餡などいろいろな具材で味わいました。ふるさとのよさや伝統を地域の方から学ばせていただく機会となっています。



(5) 元気なあいさつ「朝のあいさつ運動」

毎年9月の水曜日、保護者や地域自治会、町教育員会と連携し、玄関前であいさつ運動を行っています。子どもたちは、地域に住む人の顔を覚え、元気にあいさつを交わすことで帰属感も高まり、地域で子どもたちを見守る機運が高まります。



3 おわりに

仙美里小学校の重点教育目標は、「しっかり考えよく学ぶ子」、「思いやりがありよく励む子」、「明るくたくましい子」です。今後、コミュニティ・スクール導入により、地域や保護者の連携が一層深まり、地域とともに歩む開かれた学校づくりにこれからも邁進し、人間性豊かな子の育成に力を尽くしていきます。